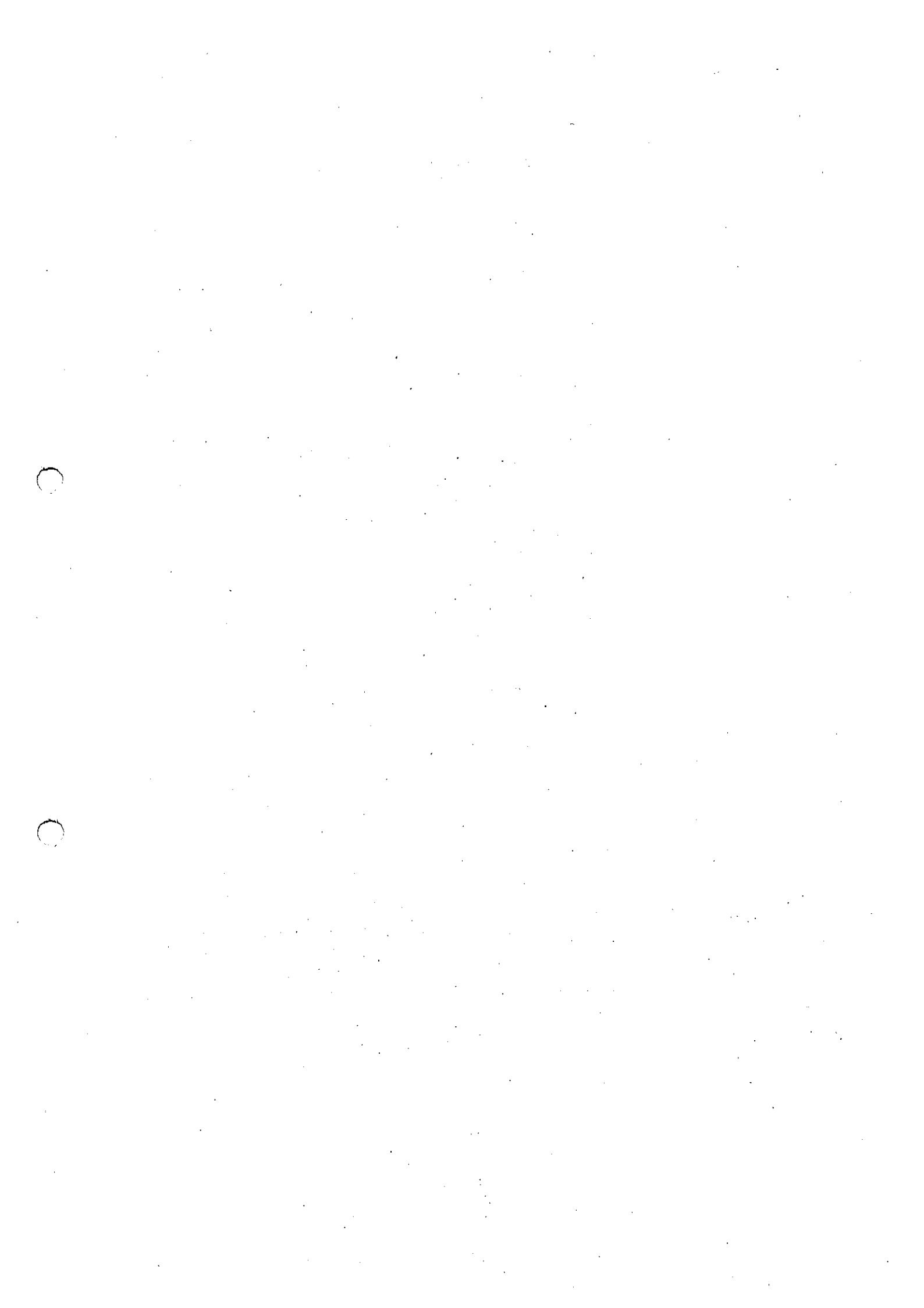


平成21年度公共下水道恩曾川左岸第12-2排水区幹線工事
(厚木市)

MRC工法



ボーリング柱状図

調査名 平成20年度公共下水道土質調査委託 (その3)

事業・工事名

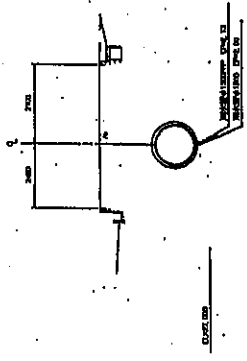
ボーリングNo.									
シートNo.									

ボーリング名	No.4	調査位置	厚木市温水地内				北緯							
発注機関	厚木市都市整備部下水道施設課			調査期間	平成20年 9月24日～平成20年 9月25日			東経						
調査業者名	株式会社 共和技術コンサルタンツ 電話 0463-22-6236		主任技師	鈴木 賢司		現代代理人	松本 洋樹		コ定者	伊藤 健		ボーリング責任者	佐々木 達	
孔口標高	H=30.43m		角	180° 上 下		方	北 0° 270° 西 90° 東 90° 南 180°		地盤勾配	水平 0°		使用機種	試錘機 KR-100 エンジン ヤンマーNs95	
総掘進長	22.27m		度	0°		向			ハンマー落下用	半自動型		ポンプ	カノーV6	

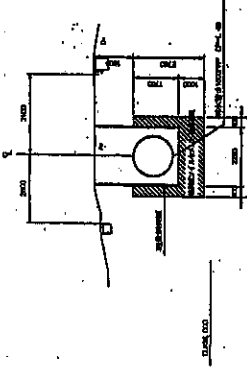
標尺	層厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記	粒度試験による土質区分	標準貫入試験					原位置試験		試料採取		掘進		
										深	10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量	N	値	深	試験名及び結果	深	試料採取方法		室内	進
m	m	m	図	区分	調	度	度	事	m	0	10	20	30	40	50	60	m	番号	方法	月	日
1	23.43	1.00	1.00	粘土(砂混りシルト)	暗褐色			表層部アスファルト。以深30~40cmの砕石。 0.30m以深砂混りシルト主体。	9/24 1.00	1.15	1	1	1	1	1	1					
2				茶褐色				比較的均質で軟質な有機質シルト層。	1.46	1	1	1	1	1	1	1					
3				有機質シルト				不規則に腐植物および軽石が混入する。	2.14	1	1	1	1	1	1	1					
4				暗褐色				1.6~1.9m間径5~30mmの亜角礫少量混入する。	3.03	1	1	1	1	1	1	1					
5								幅付近木片混入する。	4.15	1	1	1	1	1	1	1					
6	24.73	4.70	5.70	シルト	暗褐色			粘性小~中位。	5.00	1	1	1	1	1	1	1					
7								少量の腐植物を点在し径2~10mmの円礫を混入するシルト層。	6.00	1	1	1	1	1	1	1					
8	22.73	2.30	2.70	暗褐色				全体にやや不均質で軟弱である。	7.00	1	1	1	1	1	1	1					
9				黄褐色				径5~20mmの礫を主体とし粘土分をやや多く混入する。	8.15	3	4	5	12	30							
10									8.46	3	4	5	15	30							
11				粘土混り砂	暗褐色			全体に風化状を呈し礫質やや軟質である。	9.15	3	4	5	15	30							
12									10.15	3	4	5	20	30							
13									10.45	3	4	5	20	30							
14									11.15	3	4	5	15	30							
15									11.46	3	4	5	15	30							
16				黄褐色				最大礫径30~40cmで軽石を混入する。	12.15	7	10	6	21	30							
17									12.46	7	10	6	21	30							
18	12.73	10.00	17.70	粘土	暗褐色			色調一定しない。	13.15	5	4	5	14	30							
19	12.43	0.30	18.00					部分的に風化し褐色を呈する。	13.46	5	4	5	14	30							
20				黄褐色				均質に砂分を混入する。	14.15	4	5	5	14	30							
21									14.46	4	5	5	14	30							
22	8.15	4.21	22.21	粘土混り砂	暗褐色			全体に粘土分を混入し径2~30mmの礫を主体とする。	15.15	12	22	18	50	27							
23									15.46	12	22	18	50	27							
24								風化状を呈し軽石を混入する。部分的に径70~80mmのコアが採取される。	16.15	9	10	12	31	30							
									16.46	9	10	12	31	30							
									21.15	14	10	11	35	30							
									21.46	14	10	11	35	30							
									22.15	28	24	22	59	12							
									22.21	28	24	22	59	12							

横断面図 縮尺 1:100

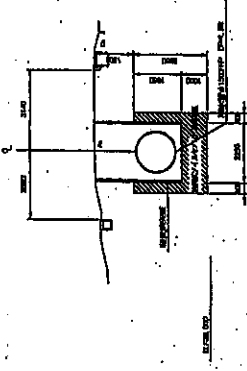
NO.13-3-1-1
 縮尺 1:100
 縮尺 1:100



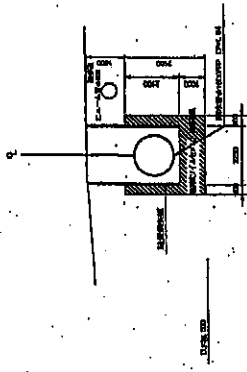
NO.13-3-1-2
 縮尺 1:100
 縮尺 1:100



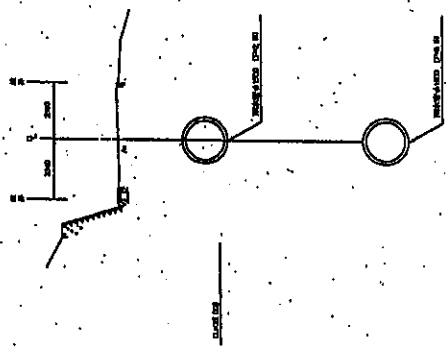
NO.13-3-1-3
 縮尺 1:100
 縮尺 1:100



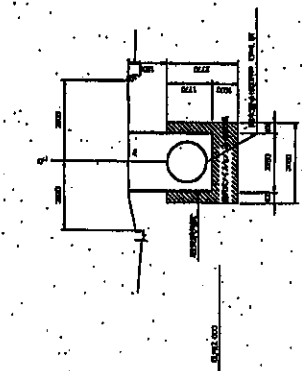
NO.13-3-1-4
 縮尺 1:100
 縮尺 1:100



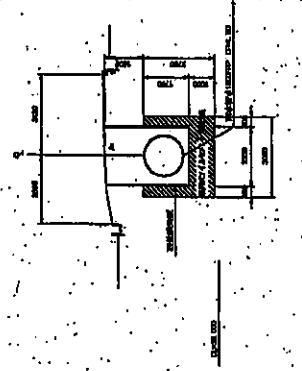
NO.13-3-1-5
 縮尺 1:100
 縮尺 1:100



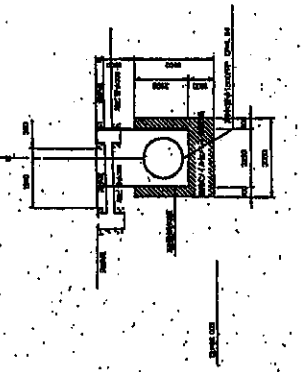
NO.13-3-1-6
 縮尺 1:100
 縮尺 1:100



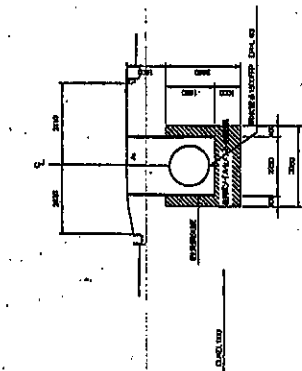
NO.13-3-1-7
 縮尺 1:100
 縮尺 1:100



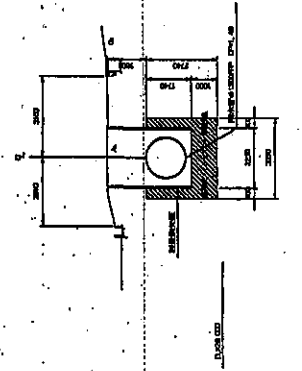
NO.13-3-1-8
 縮尺 1:100
 縮尺 1:100



NO.13-3-1-9
 縮尺 1:100
 縮尺 1:100



NO.13-3-1-10
 縮尺 1:100
 縮尺 1:100



神奈川県川崎市			
図名	縮尺	設計者	2/18
図式	1:100	設計者	
図号		設計者	
図名		設計者	

	鋼矢板土留め工法	柱列式地盤改良+軽量鋼矢板建込み工法	薬液注入+軽量鋼矢板建込み工法
<p>略 図</p>			
<p>概 要</p>	<p>鋼矢板を圧入し、閉削工法によりFRP管を布設する。</p>	<p>側部・底部を柱列式ソイルセメントにより地盤改良し、軽量鋼矢板建込み工法により、FRP管を布設する。</p>	<p>側部・底部を薬液注入により地盤改良し、軽量鋼矢板建込み工法により、FRP管を布設する。</p>
<p>長 所</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地盤改良をしない場合には最も安価である。 	<ul style="list-style-type: none"> 軽量鋼矢板建込み工法で施工可能である。 長期支持力が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 軽量鋼矢板建込み工法で施工可能である。 底面の支持力が得られ、管布設後の沈下はない。
<p>短 所</p>	<ul style="list-style-type: none"> 周辺地盤の沈下及び管渠の沈下の可能性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 地盤改良に時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 改良体に経年変化があり、長期支持力は期待できない。
<p>経済性 (直接工事費)</p>	<p>管布設 339,300 × 139.10 = 47,196,630 円</p>	<p>管布設 226,624 × 139.10 = 31,509,488 地盤改良 17,371 × 318.20 = 5,527,452 33,942 × 312.97 = 10,622,767</p> <p>計 47,659,444 円</p>	<p>管布設 226,624 × 139.10 = 31,509,488 地盤改良 17,371 × 318.20 = 5,527,452 23,344,998</p> <p>計 54,854,486 円</p>
<p>評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> 周辺地盤及び管渠への影響を考慮すると地盤改良の必要があり、この場合、採用するメリットがない。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済性において有利であり、管渠の沈下の問題もない。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済性において不利である。 長期支持力が期待できない。

×

○

×